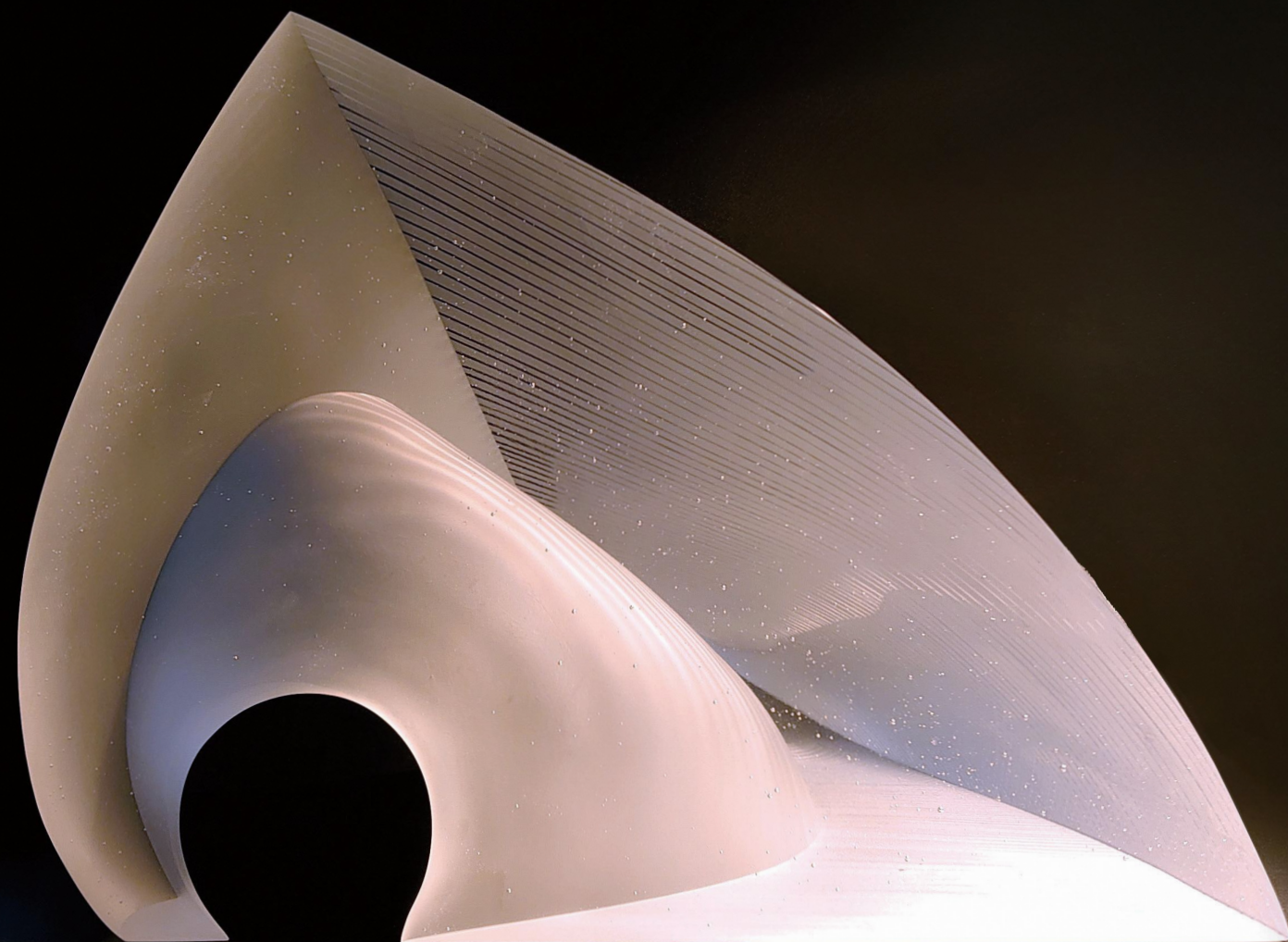


CLASS GLASS

Made in Sanyo-Onoda

きらめきと暮らす。
山陽小野田発のガラスアートブランド。
海と夕陽の美しさや、窯業の歴史で知られる山口県山陽小野田市。
CLASS GLASS（クラスグラス）は、
この街で暮らし、活動するガラス造形作家たちによって
2022年に誕生した、ガラスアートブランドです。
高い芸術性と暮らしに取り入れやすいスタイルをコンセプトに、
個性豊かな作家たちが、日々にきらめきを添える作品をお届けします。



S A N Y O O N O D A

C O N T E M P O R A R Y
G L A S S A R T
E X H I B I T I O N

特別作品展 | 東京展 上野の森美術館ギャラリー

第9回 現代ガラス展 2024/ 3.6—3.10
in 山陽小野田
10:00—17:00 ※入場は16:30まで

入 場 無 料

主 催 現代ガラス展実行委員会・山陽小野田市

後 援 文化庁/山口県/山口県教育委員会/日本ガラス工芸協会/日本ガラス工芸学会/山陽小野田市文化協会/KRY 山口放送/yab 山口朝日放送/朝日新聞社/毎日新聞社
読売新聞社/中国新聞防長本社/山口新聞社/宇部日報社/西日本新聞社/山口宇部経済新聞/FM きらら/FM スマイルウェーブ/株式会社エフエム山口

助 成 NOMURA 野村財団

問合先 現代ガラス展実行委員会事務局 TEL 0836-82-1115 756-8601 山陽小野田市日の出一丁目1番1号（文化スポーツ推進課内）

現代
ガラス展
HP



自分だけの作品づくり
気軽にガラス制作体験



山陽小野田市きららビーチ焼野
☎ 0836-88-0064
🕒 9:00～17:00 ※体験受付は～15:30
📅 月曜、火曜、年末年始 ※祝日の場合は開館、翌平日休
📍 あり 🌐 <https://www.onodaglass.jp/>

きららガラス未来館
ガラス制作体験ができる学習施設。ジェルキャン
ドルをはじめ、エナメル絵付けやガラスアクセサ
リー体験が人気！
現代ガラス作品の
展示もあり。

西日本最大級のシステム農場



山陽小野田市増生 3392
☎ 0836-79-0092
🕒 10:00～17:00
📍 200台 🌐 <https://hana-umi.com/>

季節体験農場
花の海
花やいちご狩りなどで知られる「花の海」ですが、
実はジャガイモやピーナッツ、スイートコーン
など季節によって様々な「野菜狩り」も可能です。
普段訪れていなかった季節に行けば、ほかにも
面白い発見があるかも・・・！？

山口県山陽小野田
おすすめスポット

目の前に広がる絶景と
西洋料理を堪能



山陽小野田市きららビーチ焼野
☎ 0836-89-0080
🕒 11:30～15:30 17:30～21:30
(土日祝の昼営業は11:00～)
※11～1月の夜営業は17:00～ ※全て1時間前 L.O
📅 月曜、火曜（祝日の場合は翌日）
🌐 <https://sol-poniente.co.jp/>

Sol Poniente
ソル・ポニエンテ
隈研吾氏による設計の、自然と調和した開放感
抜群のレストラン。人気メニューであるパエリア
は、大きな海老をはじめ、ムール貝やホタテな
ど海の幸が盛りだくさんです。

岩穴からのぞく夕陽は幻想的



山陽小野田市小野田字赤崎 2-1
☎ 山陽小野田市都市計画課 0836-82-1162
📍 あり

本山岬公園（くぐり岩）
周防灘に面した公園の一番の目玉は「くぐり岩」
と呼ばれる奇岩。そびえ立つ姿はまさに圧巻の
一言。干潮時のみ
近づけるパワース
ポット。

ごあいさつ

「第9回現代ガラス展 in 山陽小野田」を開催にあたり、文化庁、パトローネ企業並びに個人スポンサーの皆様方に厚くお礼申し上げます。

また、遠方より駆けつけていただきました審査員の皆様、関係スタッフの皆様にも感謝致します。

3年に一度の現代ガラス展 in 山陽小野田は今回で9回目の開催となりましたが、これも、山陽小野田のガラス文化の発展のためにご尽力いただいた関係者の皆様の並々ならぬご尽力の賜物と思っております。

今回も全国各地より61点のご応募をいただき、大賞1点、優秀賞1点、市長賞1点、審査員賞5点、冠スポンサー賞12点が決定致しました。

本ガラス展は、平成13年度の第1回以降、回を重ねるごとに成長していき、日本三大ガラス展のひとつとして、格式の高い公募展に成熟して参りました。特に、今回の開催は、アフターコロナとなり、芸術や文化が解き放たれた様な躍動感に満ち溢れた作品の数々で、過去に例がないほど円滑に次々と各賞が決定しました。

また、今回は展覧会も、おのだサンパークに次いで山口県立萩美術館・浦上記念館、そして、上野の森美術館（東京都）で開催する運びとなり、格式ある公募展としての地位の具現化と本市のガラス文化の全国発信に向けての大きな前進となったものと思います。

現在我が街では、このガラス展開催の歴史的背景を活かし、ガラスアートの街づくりを推進しており、この数年では市をあげて推進したブランド化の成果として「CLASS GLASS」が誕生！

首都圏に於いても、展示販売等の展開がはじまり、素晴らしい成果をあげております。正にセメント産業に代表される、日本産業発祥の街「山陽小野田」にふさわしい企画といえます。

これから益々、市民が市と連携し、企画、運営を担うことで「ガラスアートのまち山陽小野田」が市民に浸透し、未来に向かってガラス文化が飛躍していくものと確信しております。関係者のみならず、ご来場の皆様も、今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつと致します。

感 謝



現代ガラス展実行委員会
実行委員長

永山 純一郎
Jyunichiro Nagayama



山口県
山陽小野田市市長

藤田 剛二
Goji Fujita

本市は古くからセメントに代表される窯業と深い関わりがあったことから、市の歴史を伝承しつつ、新しい文化を創造していこうと、窯業のひとつである「ガラス」に着目し、平成12年(2000年)に本市出身で世界的にも有名なガラス造形作家であった竹内傳治氏(故人)と「日本のガラス展」を開催したことを契機に、以来ガラスをコンセプトにしたまちづくりに取り組んでいます。ガラス文化の推進については、現在、第二次市総合計画中期基本計画の重点施策の一つである「まちの価値を創る」の一つに掲げており、その中で現代ガラス展の開催は、重要な位置付けとしています。この現代ガラス展は、若手作家を育成したいという竹内氏の遺志を受け継ぎ、出展者の年齢を45歳までとし、平成13年(2001年)開催の第1回展以降、3年に一度のトリエンナーレ方式により開催し、今では富山や金沢と並ぶ日本三大ガラス展のコンペティションとしての評価が高まってきており、若手作家の登竜門となっています。

第9回展では、令和5年7月8日から8月26日までの間、入選作品全てを展示する本展の開催を皮切りに、9月16日から12月3日までの間、山口県立萩美術館・浦上記念館で、令和6年3月6日から10日までの間、東京・上野の森美術館で、受賞作品を中心に展示する特別作品展を開催する運びとなりました。

加えて、昨年立ち上げたガラスアートブランド「CLASS GLASS」の販売もスタートし、市内外において本市が進める「ガラスアートによるまちづくり」の魅力を伝えていきたいと考えております。たくさんの方がこの機会に現代ガラス展にお越しいただき、ガラスの持つ多様な魅力を鑑賞していただければ幸いに存じます。

結びに、本ガラス展が、ガラス芸術のさらなる発展の場となりますことを期待するとともに、開催に当たり御尽力いただいた審査員をはじめ関係者の皆様方、また御支援いただいた多くの個人サポーター、企業スポンサー様に改めて衷心より感謝申し上げます、ごあいさつといたします。

第9回 現代ガラス展
in 山陽小野田

作品リスト

東京展 会場：上野の森美術館ギャラリー

受賞作品		
賞	氏名	作品名
大賞	作田 美智子	静寂のその先に
優秀賞	富井 弥樹	つなぐもの
市長賞	遠藤 由季子	たまり日
横山審査員賞	峯岸 結香	depth
隈審査員賞	加藤 千佳	icicle #3
ホンムラ審査員賞	井川 彩子	Honeycomb-GlassVII
土屋審査員賞	小山 敦子	未知を想う '22-1
三輪審査員賞	三原 航大	voyager

特別作品	
氏名	作品名
横山 尚人	真夏の夜の夢
ホンムラ モトゾウ	海乃幸硝子大皿

冠スポンサー賞		
賞	氏名	作品名
小野田商業開発株式会社賞	石見 麻衣子	arche
医療法人健仁会賞	塩田 裕未	目を覆った
山陽小野田市自治会連合会賞	菅野 有紀子	Positive loop #2
西部石油株式会社賞	橋本 倫礼	そこにあるもの
太平洋セメント株式会社賞	小林 昂平	Hiding
田辺三菱製薬工場株式会社賞	宮下 真巳	月明かり
中国電力株式会社賞	竹内 駿	CLIFF
長州産業株式会社賞	板野 尚美	纏 No.3
戸田工業株式会社賞	藤田 創平	彼岸過ぎまで
日産化学株式会社賞	小倉 五月	湖上の月夜
日本化薬株式会社賞	川田 絢子	光の向かう先へ
株式会社山口銀行賞	松尾 具美	波あかり

SANYO ONODA
GLASS

山陽小野田市とガラス

山陽小野田市は窯業のまちとして発展してきました。古代には「須恵器」の生産地として賑わい、明治になると「硫酸瓶」など製陶業が盛んになりました。明治14年には国内初の民営セメント会社が設立されています。窯業を伝承しつつ新しい市の文化を創造し全国へ発信するために、本市出身のガラス作家故・竹内傳治氏と窯業のひとつであるガラスに注目。平成12年に「日本の現代ガラス展」を開催、翌年からは公募展「現代ガラス展」を3年に一度開催しています。竹内氏の若手ガラス作家を育成したいという遺志を受け、出品者に45歳という年齢制限を設けており、若手作家の登竜门的コンペティションとして、確固たる地位を築いております。また、国内外で活躍するガラス作家、西川慎氏と池本美和氏が焼野海岸にある工房を拠点に活動しているほか、公設ガラス工房「きららガラス未来館」では気軽にガラス制作体験ができます。



硫酸瓶の船積み風景

創業初期のセメント会社

松山窯跡から出土した須恵器

竹内傳治

徳利窯